

電照、葉齡がネギの花芽分化に及ぼす影響

福島県農業試験場いわき支場

平成13年度福島県農業試験場試験成績概要

1 部門名

野菜－ネギ－生理・生態

分類コード 03－37－04000000

2 担当者

石井睦美・常盤秀夫

3 要旨

ネギの周年生産のためには、花芽分化時期を人為的に変える必要がある。そこで、冬期間の電照、低温遭遇時の葉齡がネギの花芽分化に及ぼす影響を、夏秋どり用品種‘東京夏黒2号’及び晩抽性品種‘長悦’について明らかにした。

- (1) ‘東京夏黒2号’では、長日条件(暗期中断4時間)によって、花芽分化時期が1～2週間遅延し、花芽分化葉位が0.5～1枚上昇した。また、最終的な花芽分化株率は100%であったものの、長日条件により分化率の上昇が緩やかだった。
- (2) ‘長悦’では、長日条件により、分化開始時期には殆ど差がなかったが、花芽分化株率が30%程度に抑えられた。
- (3) ‘東京夏黒2号’では、低温遭遇時に葉齡で4葉(分化葉位6.2葉)の苗が花芽分化可能であった。その際、花芽分化の始まった分化葉位は9～10葉目であった。
- (4) ‘長悦’では、低温遭遇時に葉齡で7葉(分化葉位11葉)の苗が花芽分化可能であった。その際、花芽分化の始まった分化葉位は12～13葉目であった。

4 その他の資料等

なし